

福總新聞

吾十廿廿月三回
定價 一校月銀壹圓
廣告料 三十日郵稅三錢
編輯部 福島縣平町三丁目
發行部 福島縣平町三丁目
電話 二二二二

時の問題

大藏省の徳意によつて各府縣共銀行の合同問題が唱へられて居る。

其理想とする所は一縣一銀行に纏め度いと云ふに於けるが徒らに聲のみ大にして實行の伴なきは恰も牛歩に劣る状態である。

小銀行の群立は或は財界不安の折柄、研究さるべき多々の材料を有するかも知れないが、小銀行と云ひ大銀行と云ふも、其經營の方針に於て各々特殊なものがあつて一概に「銀行」と云ふ名稱の下に摺み込む事は困難である。

而して合併し得らるゝ可な性質を持つ銀行にしても、不ぞ抱き合ひませうと云ふ場合に至つて、中々素ツ裸居る。新聞屋の侮稱茲に於て誠意がない。

故に表面のみで結合した結果は、古疵が順次後から顯はれて、遂には破鏡の怨を見るに云ふ例は尠なくない、これは要するに併合と云ふ一點にのみ先き走つて、永久連れ添ふべき意志に乏しい爲めである。

銀行合同の至難たるや、各自經營方針を別にし、顧客を異にする理由の外に赤

裸々になれ得ざる事が大なる原因である。

文化事業の進展に伴ふて各府縣とも新聞紙の發行せらるゝ、數は實に夜半星雲を望むに等しいものがある。

然しながらオロロラたり得るものは殆んど稀である。基礎強固にして永年の歴史を有する東京の新聞或は其一地方に於ける二三新聞を除きては、所謂新聞と稱するもの殆んど

體を成さず、名詮自稱無爲の體を消すに過ぎぬ状態にある。而してこれに禍を及ぼす地方の有志と稱する一階級及銀行會社、扱ては商店等の怨嗟は内潜時代を過ぎて外に勃發せんとして新聞屋の侮稱茲に於て誠意がない。

新聞屋の侮蔑的稱呼に對し、憤激する以前に先づ各自は大いに考へねばならぬ。自は是れに考へねばならぬ。自は是れに考へねばならぬ。

これは赤裸々にはなり得る。れようが、胸三寸に藏する魂が云ふ事を聞かぬに赤

政界の風雲徒らに急なる時、葉櫻の眺め一層と優り行く、苗代に於ける村娘の歌のみ恵まれしが如く、餘韻多し、春は將に斯くして逝く。(楚歌人)

東京から

平まで

中村楚歌人

新川の葉櫻を、眺めながら、こんな事を書こうとは思ひも思はなかつた。

上野の櫻唇、未だ堅く、容易に笑を見せそうにもなかつた三月は下旬二十四日一封の紹介状を携へて平の驛頭に足跡を印して今日迄恰も一ヶ月の星晨は流がれ

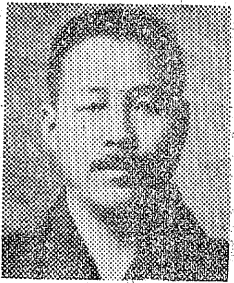
た、其間一體何をじかかど銀座の大増で一杯やる事間を副業とし俸給取りを専業としたなどは世人には見當のつかない大馬鹿者に相違ない。

事實は正直に物語る、案の定柄にもない日刊新聞の經營二百一十一號を最後として、活字も機械も職工の給料や紙屋の債務支拂ひに全部賣り飛ばし、それでもまだ足りずに保證金迄投げ出した足りずに夫婦共眞つ裸になつて都落ちならぬ田舎落と洒落れ込み、東京の真中に投げ出されたのが二月初であつた。今日から考へれば随分懲のない思ひ切りの良い事をやつたものだ。微苦笑を禁じ得ない事がある。

四倉電氣會社
社長 新妻盛

四倉銀行專務取締役
頭 戶田兵藏

故に敵黨中尙知已ありだ。我輩の此の行動は往々にして誤解を受くる、即ち鈴木は黨の爲めではなく自己擁護に専念する者である。然し我輩は堅實なる人物多數を擁する政黨が最も優秀なりとは誤らざる信條である。應接室の空氣爲めに熱し消極的氣分一掃さる。(寫眞は鈴木縣議)



(一 其)

風雲急を告げ、中央の政界、前途暗澹たる時、我が平町が有する、政友界の重鎮、鈴木縣議は元氣溼潤天空の一角を睨んで勇壯なものがある。我輩は——政友に籍を置

き終始一貫節を變ずるが如き破廉耻は絶対に爲さぬ、然し自治的方面に於ては敵黨なるが故に、良き政策にも反對を事とするものではない。

縣政調理に當つては、民政黨議員が提議する案中眞に縣民福祉を主とせるもの存する際、我輩は俱に説を同じうして成立せしむるに吝でない。

故に敵黨中尙知已ありだ。我輩の此の行動は往々にして誤解を受くる、即ち鈴木は黨の爲めではなく自己擁護に専念する者である。然し我輩は堅實なる人物多數を擁する政黨が最も優秀なりとは誤らざる信條である。應接室の空氣爲めに熱し消極的氣分一掃さる。(寫眞は鈴木縣議)

祝改題發展
福島縣農工銀行
頭 取 白井博之

株式 磐城銀行
專務 白井一郎

株式 磐城實業銀行
專務 鈴木辰三郎

株式 磐越銀行
頭 取 中野甲藏

株式 第七十七銀行
平支店長 小原長英

福島縣農工銀行
平支店長 河西八十治

諸橋守次
諸橋元三郎

安島重三郎
古川傳一

植田水力電氣株式會社
社長 金成通

東部電力株式會社平營業所
所長 武田精一

縣會議員 山崎吉平

湯本温泉!! 汝は何處へ行く?

脚下に掘らるゝ墓穴

吉本入山炭礦前所長の暴舉 行動頗る怪しき高木前町長

醒めよ! 而して起て

常磐線の旅窓より轉に前入山炭礦所長たりし吉本今日迄口頭辯論の開かるゝとする小丘を打ち眺むる時本慎一氏は去る大正十三年事既に四回最後の断案は將驛夫の呼ぶ聲にも一種の懐八月銀山監督局に對し同温に下されんとして居るが萬かしみを感ずる湯の街、湯泉地の下層を採掘すべく一吉本の主張にして勝た本温泉は、今や漸やく旅人の脳裡から去られんとしつつ一吉本の主張にして勝た本温泉は、今や漸やく旅人の脳裡から去られんとしつつ一吉本の主張にして勝た

改題に就て

市島範三
從來新聞として、各位の御後援と御指導を受けつゝあつた本紙は、今回改題すると同時に、聊か内容形態に改善を加へ御期待の萬分一に添ふ考であります。

採炭事業 年を逐ふて盛んとなつた結果、古來より名湯として知られ、盛を極めた湯本も、温泉湧出口の閉塞するに至つて、恰も火の消へたるが如く町民亦生色なき悲況に陥ち温泉とは名計り其實警城炭礦可として願書を却下したの居る。

抑も吉本氏は入山炭礦在職中から温泉場の地を原因して湯本は既に源泉廢滅し一萬の居住者を育ふべき飲料水すら枯渇に瀕しれを不當として行政裁判に知り如何にして是れが到底温泉場として將來生く訴へ飽く迄も初期の目的を採炭を得んものと計畫し先づ小手調べに試掘願を提出

命から二番目の温泉地保護權の取消

味方の引き込み

成功した吉本氏は町民がば會社未積技師の三名は同町んやりして居る間に疾風迅に滞在し詳細に調査する所雷的に縣當局に手を延ばしあり、二十七日終了して歸湯本町民が命の綱と頼む温泉京したのでこの死活問題も泉地保護權を昨年二月取消既に賽は投せられんとして居るそれにも拘らず町民の願を不許可としたのも要するを見るが如く一部温泉旅館に温泉地としての保護權の有志が善後策に腐心しつが嚴存されてあつた爲め、あるに過ぎず甚だ氣勢揚是が抹削された曉に於ては、無關心に等しき態度を監督局が如何に温泉地を維持しつゝあるは餘りに呑氣護せんとするも頗る困難の千萬と云ふべく今にして舉立場に措かれ或は敗訴とな町一致の大難に當らずんやも計られぬ形勢となつば咬臍遠く及ばざる事を考て來た、而して過日來これへねばならぬ、起て! 而同町居住者約一萬人は何等最後の断案を下すべく東して同町百年の基礎を確立京行政裁判所長澤田評定官すべきである。

源泉は決して枯渇せぬ

悪宣傳に迷ふな

五百尺掘れば滾々たる泉流
入山炭礦の態度は同町救ひの神
同温泉が、湧出量に於て減退を來たしたのは採炭事業の隆昌に因る事は勿論であるがこれが爲め源泉の壞滅を來たしたにあらざるに於て多少の犠牲を拂ひ地下五百尺を掘り下げんか滾々として盡きざる源泉に逢着するを得るとは専門家の立證する處である而して茲より地上に引き上ぐるとすれば以前に倍する名湯を得る事は易々たるものである又同町に執つて最も惠まる一事は入山炭礦會社が若しこの計畫が實行さるゝと擔提供するとの事であつて同町の負擔する處は引き揚に要する動力のみで永年の生活基礎が確立すると云ふるにある入山炭礦が同町の死活問題に就ての此の態度は實に義舉と云ふべく同町の爲めには救ひの神に等しい立派なものであると云はねばならぬ又吉本派の宣傳によれば飲料水さへ枯渇せりと稱するも論より證據現在不便を感せず生活しつゝあるに見るも明かである
迷ふ勿れ 奮起せよ
而してこの死活問題に對し全町一致永遠の策を樹つべく努力せねばならぬ。



福島縣 町
鹽屋山崎合名會社
電話 營業部 一〇七番
電話 鹽屋山崎 一七番

ぬる湯
淋病、梅毒、効著し
子宮病、皮膚病等に好
當温泉は親切 館主 二階堂伊藏
福島市より西南四里奥羽線塩屋山崎二里

東北の夕湯
玉子湯旅館
高湯温泉(岩代信夫郡)後藤寅治
福島より西四里奥羽線塩屋山崎より二里車馬の便有
吾妻の山腹にあり眺望佳良なり
弊館は萬事に注意し毫も不便なき様親切丁寧を本意とす

やぶそば
電一四番

祝改題發展
山形 板谷
羽前 五色温泉
●奥羽線板谷驛より三十町以内●
△當温泉は浴用と内服用として効驗著し
△當温泉は海拔三千尺眺望佳絶空氣新鮮

喝! 一棒
炭山の景氣が悪いからと
て青菜に鹽の吐息は虫が
ボヤ／＼して居る場合で
は、あるまい、百年の大計
片倉製糸の工場が平に建
設さるゝとの噂は恰も早
すべきた。
燃料は豊富、鐵道は四通
八達、
平の町民共……と嘗め
らるゝは自からの罪だ。

学校の移轉問題も近頃は
だげ基礎も堅實であり目下
千圓口の新會員募集中であ
る公稱資本金六萬圓四分の
一拂ひ込みでこの成績は優
秀と見ねばならぬ又同會社
つて早やう築き立てる

外科、耳鼻咽喉科
泌尿器科

祝改題發展

祝改題發展

古河鑛業株式會社
好間鑛業所

小田吉治

小田炭礦株式會社
社長 萩原申八

湯本鑛業所

石城郡赤井村
常磐鑛業所

川瀨炭礦
縣會議員 鷺清昇

石城郡内郷村大字白水
不動澤炭礦々業所

磐城炭礦株式會社鑛業所

久原鑛業株式會社
日立鑛山事務所
茨城縣多賀郡日立町

株式會社 日立製作所

宮城縣刈田郡白石町
株式會社 仙南銀行
電話二五番

宮城縣刈田郡白石町
大味合名會社
電話長一番

福島縣平町
磐城建物株式會社
電話五一八番

へき飲料水すら枯渇に瀕しれを不審として行政裁判に...

福島縣 町 鹽屋山崎合名會社

ぬる湯 東北の多功 王子湯旅館

磐城建物株式會社

祝改題發展 赤心堂病院

喝！一棒 炭山の景氣が悪いからと...

平の町民共...と嘗めらるゝは自からの罪だ。

やぶそば 勇屋履物店 小野常治商店

工榮商會 佐々木健一郎

ドン底から 淋しい笑

妾は類を異にするよ 御託宣のすこい姐えさん

藥師の奉安 影鑄金界の匠

警城セメント特約販賣店

好きで、こんな稼業をや... 憧がれの炭礦夫、頑丈な...

嫌な客もあります。暗ら開みで一寸見た時は、すいた...

湯本無盡 成績良好 湯本町にある無盡株式會社

久釜屋商店 諸橋久太郎

此處に來たのは去年の冬... 魔窟を後にして流れて來た...

二本松電氣の 増燈増燭 黒田支店長奮闘

白萩平支店 柴田書店

清福 稻妻 古川傳一

惡宣傳に迷ふな

全町一致永遠の策を樹つべく努力せねばならぬ。

磐城建物株式會社

田村郡片會根村
 村長 助川啓四郎
 縣會議員 長山口廣喜
 郵便局長 橋本一義
 金物商 渡邊善作
 農務大物 渡邊善吉
 消防組頭 御代田秀吉
 村會議員 鈴木虎之助
 小泉與七商店
 玄葉鶴治商店
 船引酒造部
 電話三十番
 船引製糸場
 根本四郎
 電話三十一
 船引驛前
 八城商會林業部
 和洋商安久津菓子店
 電話三十二番
 和洋菓子 吉田秀壽藥店
 號 吉田屋
 高橋魚店
 電話二九番
 田村郡瀧根村
 縣會議員 石井康重
 博多内藏人
 先崎善吉
 岩崎義仁
 木炭商 藤田穎孝
 磐城瀧根出張所
 阿曾英太郎
 細目東雲

内藤龜之助商店
 船引出張所
 電話二番
 土木建築 請負業 石井竹七
 大越村
 村長 塚原兼義
 久保田醫院
 石井三郎
 柳沼米藏
 宇佐義壽重
 小野新町
 町長代理 宗像德彌
 郵便局長 藤田邦彦
 校長 紫原清治
 消防組頭 小泉富彌
 小泉音七
 二瓶平馬
 藤田虎三郎
 郡司兵吾
 阿部未藏
 草野良八
 草野久太郎
 西山平治
 西山金昇
 牧山醫院
 大方醫院
 根本醫院
 小野新町銀行組合
 小野新町玉陽組合
 小野新町裁縫女學
 東部電力株式會社
 小野新町營業所
 佐久間屋旅館
 電話十七番

酒服吳造
 秋本長右衛門
 白河屋金物店
 電話五十四番
 新井時計店
 會田時計店
 小野新町
 四倉屋魚店
 杉田魚店
 高橋龜二郎
 西山倭太郎
 大和田留之助
 小川屋肥料店
 吳服大物萬仕立物商
 吉田正雄
 柏屋商店
 會社
 永瀨染物店
 小野新町臺町
 瀨下齒科院
 瀨下進
 板橋齒科醫院
 平町長橋町
 柏木支店
 電話二四三番
 西洋料理カフエー
 松ケ岡
 細屋町三三
 松の壽し
 電話五五三
 平町橋越小路
 壽司本
 電話三五五番

カフエー
 ボタ
 電話四六四番
 鶴美軒
 電話三二四番
 丸昇軒
 電話長四三九番
 釘屋酒造店
 電話一五五番
 吉野喜十
 平町鍛冶町
 杉原新吾
 四倉町長
 内郷村長
 野木龜之助
 赤井村長
 根本忠松
 茨城縣助川驛前
 御料理 合 ひさご
 海水浴旅館
 都館
 茨城縣助川驛前
 飛田辰五郎
 須賀川銀行
 岩瀨興業銀行
 郡山橋本銀行支店
 白河實業銀行支店
 郡山銀行支店
 二本松銀行支店

河田梅吉
 石城郡第三區
 小學校長會
 平町公立學校長
 懇話會
 請負 只野忠康
 佐藤武之
 回春院長
 川井重之
 豐間村
 大平千秋
 小野忠一
 江口忠一
 箱崎豐
 高久村
 相馬郡小高町
 時田子之助
 九品寺 住職
 遠藤心光
 四倉町
 警署 職業學校
 女子
 海氣館
 四倉町
 平藝妓屋組合
 源藝妓屋組合
 中村藝妓屋組合
 中村料理屋組合
 中村料理屋組合

相馬郡中村町
 中村製絲所
 電話二五五番
 西洋料理業組合
 平町料理屋組合
 植田藝妓屋組合
 小高銀行組合
 原町銀行組合
 相馬銀行組合
 本宮銀行組合
 福島市驛前
 松葉館辨當部
 電話四九一
 大村屋旅館
 大村一郎
 平町研町
 打綿類布團製造問屋
 吉村安次郎
 電話二五七番
 債券、公債、兩替、質商。
 多田井商店
 平町大工町
 伊達郡藤田町
 材木商 赤井畑滿
 田村郡小野新町
 田村實業銀行
 電話二二番
 田村實業銀行
 田村實業銀行
 川前出張所

院長 醫學博士 難波睦
 內科 外科 小兒科
 婦人科 花柳病科
 院長每日診察 ◎看護婦見習募集
 本院主事 加澤忠治
 昭和三年 五月
 城 共濟病院
 電話六四一
 東北本線白石驛前
 岡崎ホテール
 同食堂喫茶部
 電 特長 四番
 陶器 荒物 雜貨 卸
 松崎長三郎
 新川町 電話一七二番
 洋式宴會
 和久井屋漆器店
 電話四〇五番
 平町五丁目角
 親切で買ひ良き店
 山野邊藥局
 藥劑師 山野邊東次郎
 平町三丁目
 山家メリヤス店
 電話六〇五番